

アジア太平洋研究科

2021 年度秋学期（水曜日 1-2 時限目）

場所：未定

東アジア研究（台湾）(J)

松田康博

（1）授業概要

現代台湾を、歴史、政治、経済、国際関係、安全保障など様々な側面から論じる。台湾問題の複雑さを理解すると同時に、台湾を媒介として現代の国際関係を理解することを目的とする。中国大陸の東南、北東アジアの西南、東南アジアの北東に位置し、多くの「外来勢力」の歴史によって彩られた台湾は、自ずと独特の重層的社会を作り上げた。台湾を理解するには、台湾そのものに対する深い洞察が必要である同時に、台湾を包摂する多重的な地域の文脈をふまえなければならないのである。

特に 1990 年代以降、民主化をはじめとする台湾内部の変化とその国際的地位の変化には刮目すべき点が多い。この結果、台湾は学問的研究の対象としてのみならず、この地域で活動するあらゆる実務家にとって無視することのできない重要な地域となった。講義では、現地でしか得られない情報や感覚を紹介すると共に、どのようにしてそれらを学問的に理解し、説明するかを追求したい。受講者からの活発な質問を歓迎する。

（2）授業の到達目標

講義は、受講者の学問的関心を高めるための導入としての位置づけにあり、受講者は自分が関心を持ったテーマを各自さらに掘り下げて研究し、水準の高いレポートを執筆することが求められる。執筆要領を無視したり、題目や氏名さえ抜けたりしているようなレポートを提出した場合は低い成績がつくことを覚悟すること。

（3）授業計画

初回の授業で「論文・レポートの書き方」、「資料収集の仕方」に関して簡単な解説を行う。また、1~2 度テーマを決めて討論を行う。受講者はレジュメおよび資料を Waseda Moodle からダウンロードすること。なお、本年度については 2 コマ連続して 8 週間の集中的な講義となる。

授業方式であるが、COVID-19 の感染状況と大学の方針により、完全オンラインか、対面授業か、オンラインと対面のハイブリッドかを決める。詳細については、Waseda Moodle の授業サイトに掲載するので、注意すること。

日	時限	授業の内容
9/29	1	ガイダンス（接続テストを含む）
10/6	1	地理・人文・歴史
10/6	2	日本の植民地統治（1885-1945）①
10/13	1	日本の植民地統治（1895-1945）②
10/13	2	中華民国による接收と混乱（1945-49）
10/20	1	蔣介石政権：一党独裁体制の成立と強化（1950-72）①
10/20	2	蔣介石政権：一党独裁体制の成立と強化（1950-72）②
10/27	1	蔣経国政権：孤立と繁栄と自由化改革（1972-88）①
10/27	2	蔣経国政権：孤立と繁栄と自由化改革（1972-88）②
11/3	1	李登輝政権：民主化と実用主義外交（1988-2000）①
11/3	2	李登輝政権：民主化と実用主義外交（1988-2000）②
11/10	1	陳水扁政権：アイデンティティ政治の展開と改革の空転（2000-08）
11/10	2	馬英九政権：対中国融和と市民社会の成熟（2008-16）
11/17	1	蔡英文政権：繁栄と自立のディレンマ（2016-）
11/17	2	総合討論

（４）主に授業で使用される言語

指定なし（日本語）

（５－１）教科書

Waseda Moodle に必読文献をアップロードする。

（５－２）参考文献

- ① 黄昭堂『台湾総督府』教育社新書、1981年。
- ② 近藤正己『総力戦と台湾』刀水書房、1996年。
- ③ 何義麟『二・二八事件—「台湾人」形成のエスノポリティクス—』東京大学出版会、2003年。
- ④ 彭明敏・黄昭堂『台湾の法的地位』東京大学出版会、1976年。
- ⑤ 松田康博『台湾における一党独裁体制の成立』慶應義塾大学出版会、2006年。
- ⑥ 若林正文『台湾—分裂国家と民主化』東京大学出版会、1992年。
- ⑦ 若林正文『台湾の政治—中華民国台湾化の戦後史』東京大学出版会、2008年。
- ⑧ 菅野敦志『台湾の国家と文化—「脱日本化」・「中国化」・「本土化」』勁草書房、2011年。
- ⑨ 若林正文編『ポスト民主化期の台湾政治—陳水扁政権の八年』日本貿易振興機構アジア経済研究所、2010年。（<http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Sousho/582.html>）

- ⑩ 小笠原欣幸・佐藤幸人編『馬英九再選—2012年台湾総統選挙の結果とその影響—』日本貿易振興機構アジア経済研究所、2012年
(<http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Josei/018.html>)。
- ⑪ 何義麟『台湾現代史—二・二八事件をめぐる歴史の再記憶—』平凡社、2014年。
- ⑫ 松田康博・清水麗共編著『現代台湾の政治経済と中台関係』晃陽書房、2018年。
- ⑬ 佐藤幸人・小笠原欣幸・松田康博・川上桃子著『蔡英文再選—2020年台湾総統選挙と第2期蔡政権の課題—』日本貿易振興機構アジア経済研究所、2020年、
https://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/Kidou/2020_taiwan.html?fbclid=IwARODN94XJGIppQFFKUI81xlcQNeOKrHvH_9z-X74HaaRZ5IqKNBZuAxGE_A。
- ⑭ 川島真・清水麗・松田康博・楊永明共著『〔増補版〕日台関係史—1945-2020—』東京大学出版会、2020年。

このほか、受講者が自ら掘り下げて研究し、レポート執筆の参考とするため、参考文献目録を随時紹介する。

(6) 成績評価方法

主として学期末に提出するレポートで評価する(70%)。出席と予習コメントを重視する(30%)。積極的に討論に参加しているかどうかも評価の参考とする。受講者はおおむね授業で取り上げたテーマの中から執筆するレポートのテーマを選定し、主に授業の際に配布される文献目録等を利用して、レポートを作成する。レポートの使用言語は日本語とし、執筆要領に関しては講義の際に説明する。

(7) 備考・関連する URL

レポートのテーマ選定や参考文献などの相談はメールで行う。<yatsuda アットマーク ioc.u-tokyo.ac.jp>に各自連絡すること。

- ・ 東京大学東洋文化研究所松田康博研究室：参考資料などダウンロード可。

http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ymatsuda/jp/biog_detail.html

- ・ 日本台湾学会：研究会情報やリンク集が充実。

<http://www.jats.gr.jp/>

- ・ 財団法人交流協会日台交流センター：図書貸し出し可。

<https://www.koryu.or.jp/about/tokyo/tabid120.html>

- ・ 国立国会図書館リサーチ・ナビ「アジア情報の調べ方」

<https://navi.ndl.go.jp/asia/entry/research-guide-asia.php>

(8) 予習／復習に必要な時間と学習内容

授業に関連する教科書・参考書を事前に読んで、200～400字程度のコメントを Waseda

Moodle に提出すること。1 時間から 1 時間半程度の時間が必要。